

令和7年度 西成区運営方針

(自己評価について)

令和8年度第1回西成区区政会議

令和8年7月21日

令和7年度 西成区運営方針(経営課題1)における具体的取組

経営課題	主な戦略	具体的取組	担当分科会
【経営課題1】 子どもの夢が広がるまち	(1)子どもが健やかに成長できるようにする (2)すべての子どもの学習意欲があふれる環境をつくる (3)親子が安心して暮らすことができるように支える	西成区こども生活・まなびサポート事業	こども分科会
		外国につながる児童生徒の学習言語定着支援事業	
		学力分析に基づく演習を活用した苦手分野克服事業	
		基礎学力向上支援事業(西成ジャガピースクール)	
		西成区基礎学力アップ事業(西成まなび塾)	
		発展型学習支援事業(西成ジャガピースクールアドバンス・西成特別進学塾)	
		プレーパーク事業	
		障がいがある子どもや親の孤立防止支援事業	

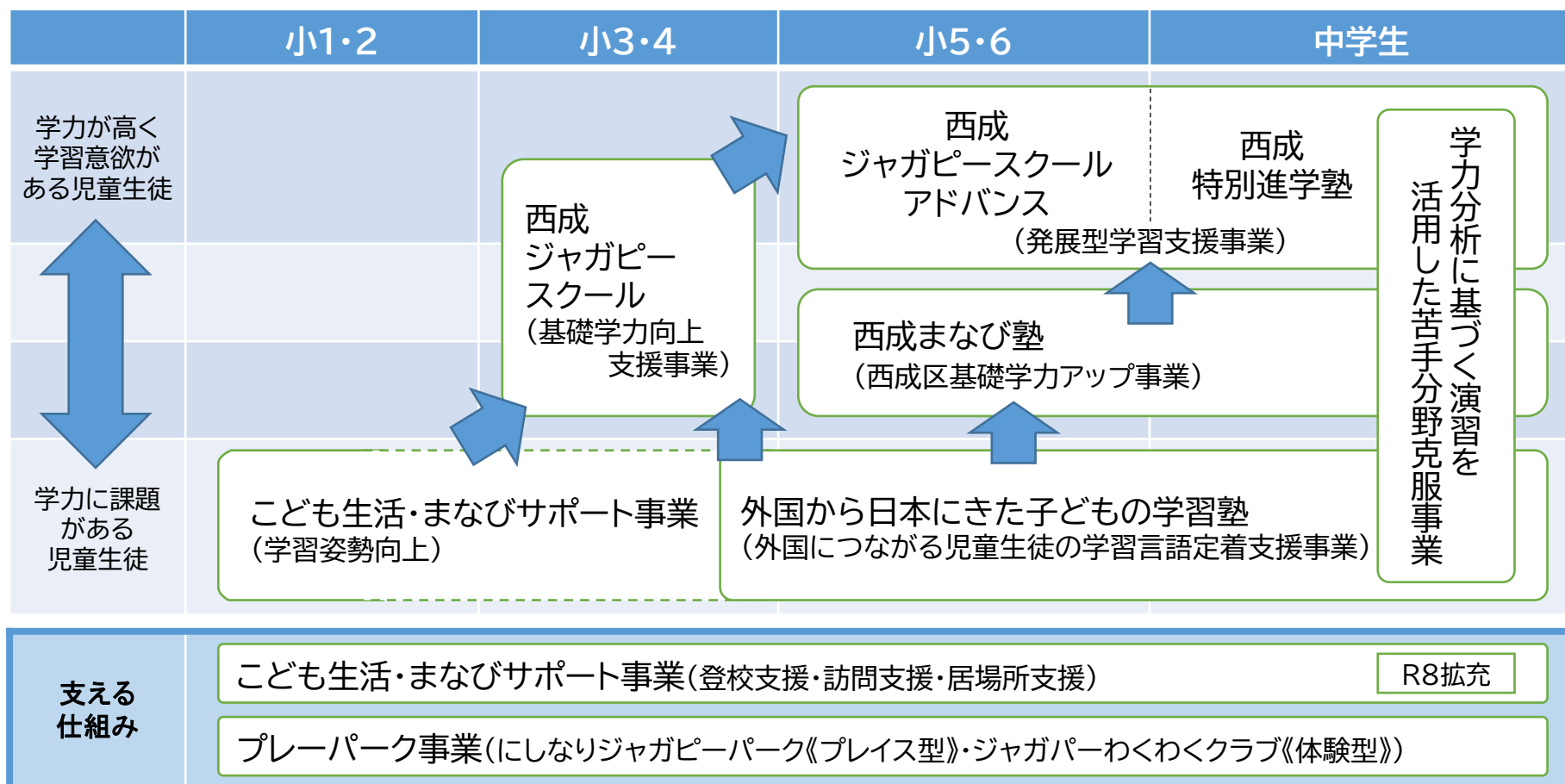
学力向上に向けた区施策イメージ「教育するなら西成」

第三期西成特区構想：人口減少に歯止めをかける。

18～25歳の若年層が流入増加も、就学前世帯(0～5歳・25～35歳)は転出超過。

⇒まちづくり(住環境)とともに、教育環境を充実し、住み続けてもらう。

◆子育て世帯の幅広いニーズに応え、「大阪市平均の学力」「不登校の実質ゼロ」の実現に向けて取り組む。



西成区こども生活・まなびサポート事業

5決算額

64,232千円

6決算額

118,604千円

7予算額

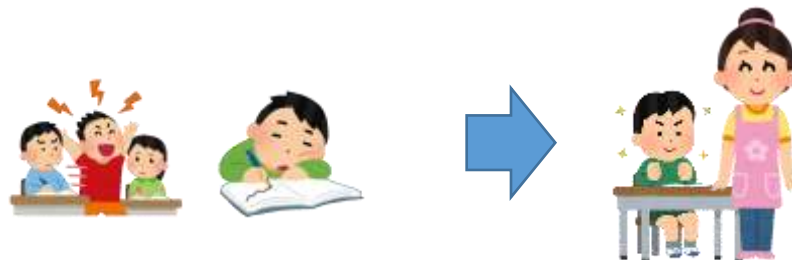
145,859千円

目的

サポートが必要な児童生徒に対して、寄り添い型の支援(遅刻・不登校の対応、学習姿勢を向上させるための支援等)を行う支援員等を配置し、学びの場への定着を図る。

取組実績

- 児童生徒や学校の実情に合わせて、電話や家庭訪問などにより児童生徒の登校支援等を実施。
- 教室に入りづらい児童生徒を丁寧に支援するための部屋に専任の支援員を配置し、学習支援や社会的自立支援を実施。
- 幼稚園・保育所等と小学校のギャップから授業に集中できない児童に対し、寄り添い支援を行い、担任の話を集中して聞けるよう学習に向かわせるためのサポートを実施。



自己評価・今後の方針

- 区内不登校在籍率は、概ね大阪市平均に近づきつつある。
- 教室に入りづらい生徒の別室登校を支援する支援員の配置により、不登校生徒の登校日数が増加するなどの成果が見られたため、令和8年度から配置校を1中学校から3中学校へ拡充する。
- 座って学習する、学習活動に参加するなど、児童に学習姿勢の改善も見られており、着実に定着が進んでいる。
- 引き続き支援員等を配置し、児童生徒の課題に合わせた個別の支援を行っていく。

外国につながる児童生徒の学習言語定着支援事業

5決算額

0千円

6決算額

7,543千円

7予算額

9,050千円

目的

日本語で日常会話はできるが、学力に課題がある児童生徒を対象に、母国の学校では教わっていない内容や、日本語習得中に授業を受けたため十分に理解できていなかった内容などの補習を行うために放課後学習を実施し、教科学習を通した日本語指導を行うことにより、学習に使う日本語(学習言語)の定着と学力の向上を図る。(小学校4年生～中学校3年生)

取組実績

- 区内小中学校のうち2か所(岸里小、鶴見橋中)で児童生徒1～3名に対して講師1名を配置し、個別の学習指導を実施。
- 参加者は2か所で合計30名

岸里小学校教室：小学生16名、中学生 3名

鶴見橋中学校教室：小学生 8名、中学生 3名



自己評価・今後の方針

- 参加者へのアンケートで、先生の教え方がわかりやすいと回答した児童生徒の割合が70%であり、また、学校の授業が分かるようになったと回答した児童生徒の割合が55%であった。
- 参加者の学力は向上しており、引き続き言語の習熟度及び個別の学力に合わせて講師の配置数や学習内容を工夫し、より手厚い支援に取り組む。

学力分析に基づく演習を活用した苦手分野克服事業

5決算額

0千円

6決算額

6,387千円

7予算額

8,358千円

目的

区内全中学校で、模擬テストを通じて、生徒個々人の苦手とする分野を分析し、また、苦手分野に応じた演習問題での反復演習をすることで、学力の向上を図る。(中学校1年生～3年生)

取組実績

区内中学校生徒を対象に5教科(国語・数学・英語・社会・理科)の模擬テストを実施し、結果を分析して苦手分野の演習問題をデジタルドリル(学習者用端末)で反復演習を実施。



自己評価・今後の方針

- ・ 中学校3年生のチャレンジテストの西成区平均点の大阪市比が、令和7年度目標について数学・英語は達成した一方、国語は未達成であったが、3教科平均は概ね大阪市平均に近づきつつある。
- ・ 引き続き、デジタルドリルを活用することで、生徒が学習に取り組みやすくなるとともに、取り組みが遅れている生徒には声掛けを行うなど生徒の学習頻度を高めていく。

基礎学力向上支援事業(西成ジャガピースクール)

5決算額

8,304千円

6決算額

8,325千円

7予算額

8,332千円

目的

区内全10小学校で、3・4年生を対象に、夏休み・冬休みや平日の放課後を利用し、小学校で塾等の事業者による課外授業を実施。

取組実績

年間45時間を実施。うち、前期(6～8月)20時間(夏季休業中を中心に実施)
後期(9～2月)25時間(放課後の時間・冬休みを中心に実施)。参加者は219名。



自己評価・今後の方針

- 令和6年度の学力経年調査において、ジャガピースクール参加者の国語で4割、算数で6割弱の児童が大阪市平均を超えた。
- 引き続き習熟度別で講師の配置などに配慮を行い、誰でも学習できるよう実施していく。

西成区基礎学力アップ事業(西成まなび塾)

5決算額

162千円

6決算額

128千円

7予算額

143千円

目的

区内小学5・6年生及び中学生を対象に、中学校校舎等の公共施設を活用して塾等事業者による課外授業(補習)を実施。

取組実績

参加登録者数(令和7年度)

小学生：北津守小学校	5名	たちばな会館	1名	玉出老人憩いの家	8名	合計	14名
中学生：鶴見橋中学校	22名	たちばな会館	23名	玉出老人憩いの家	20名	合計	65名



自己評価・今後の方針

- 参加者へのアンケートで、学力があがったと回答した児童割合が小学生100%、中学生86%であり、また、勉強の仕方が分かってきたと回答した割合が小学生80%、中学生84%であった。
- 課題のある児童生徒が安心して参加できる居場所であり、また、学習習慣の定着が苦手な児童生徒への対応として個々の習熟度に合わせた学習内容を継続して取り組む。

発展型学習支援事業(西成ジャガピスクールアドバンス・西成特別進学塾)

5決算額

0千円

6決算額

16,288千円

7予算額

23,284千円

目的

家庭の経済状況に関わらず本人が志望する高等学校への進学ができるように、発展的な学習の機会を提供し、更なる学力向上をめざす。(小学校5・6年生、中学校1～3年生)

取組実績

小学生：区内10小学校で国語・算数・英語の授業を年間100時間実施。参加者は55名。

中学生：区内 2中学校で国語・数学・英語の授業を年間300時間実施。参加者は40名。

中学3年生は、さらに社会・理科の授業を長期休暇中に40時間実施。

自己評価・今後の方針

- ・ 小学校5・6年生及び中学生について、実力テストの第2回と第3回の結果を比較したところ、小学生は学力が上昇した児童が3割強にとどまった。一方、中学生では6割弱の生徒の学力が上昇した。
- ・ 中学生においては、学力に応じてクラス分けし、実施場所である2中学校で、それぞれ特進コースと発展コースを実施し、各生徒にあった授業を提供する。
- ・ 引き続き、学習意欲のある児童生徒に対して、進学に向けた発展的な内容の学習を区内10小学校と区内2中学校で実施することによって更なる学力向上をめざす。



プレーパーク事業

5決算額

14,692千円

6決算額

16,328千円

7予算額

22,153千円

目的

子どもの生きる力を育む居場所として、子どもがやりたい、遊びたいと思うことを自由にできる冒険遊び場(プレーパーク)を実施。

取組実績

【プレイス型】 にしなりジャガピーパーク

< 1日平均来場者数 > 64名

< 場所 >

区内もと小学校、区内公園など

< 開催 >

土日祝を中心に年間55日

< 実施内容 >

「あそび場」「まなび場」「たまり場」を実施



どろんこ遊びの様子

【体験型】 ジャガパーわくわくクラブ

< 1日平均来場者数 > 50名

< 場所 >

区内小中学校、区内公園など

< 開催 >

土日祝を中心に年間18日

< 実施内容 >

体験活動により子どもの学習意欲や関心を積極的に刺激する内容のイベントを実施



理科実験教室の様子

【体験型】ジャガパーわくわくクラブSP：< 来場者数 >881名 < 場所 >ノアインドアステージ天下茶屋

自己評価・今後の方針

- プレイス型・体験型を合わせて、1日平均来場者数は目標の120人に届かなかった。
- 来場者アンケートでは満足度98%、区内の子育て環境に好印象を持つ割合も80%であり、子育てしやすい環境づくりのイメージ向上に寄与していると考えられる。
- 認知度向上に向け、他事業とのコラボレーションの検討や、広報の工夫、強化を図る必要がある。

障がいのある子どもや親の孤立防止支援事業

5決算額

4,558千円

6決算額

5,223千円

7予算額

3,094千円

目的

精神疾患や知的障がいがある子どもまたは親を支援機関等に繋ぐことによって虐待防止を図る。

取組実績

① 言語聴覚士による専門相談

対象者：言語に関する課題がある、概ね2歳から7歳までの子どもとその保護者(月2～3回実施)
令和7年度実績19人(相談回数37回)

② 助産師による専門的家庭訪問支援(1歳まで)

対象者：養育支援が必要と認められた家庭のうち、3か月児健康診査以降も継続した支援を必要と判断した家庭(ひと家庭につき、概ね月1～2回)
令和7年度実績12人

③ 子育てが難しいと感じる親や発達障がいの子を育てる親を対象に連続講座を開催

対象者：発達障がいもしくはその可能性がある概ね3歳から小学校低学年までの子どもがいて、育てにくさを感じている保護者(全7回)
令和7年度実績7人



自己評価・今後の方針

- 必要な支援に繋いだ全ての世帯に対して、安定して繋がりを維持できるよう支援した。
- 引き続き事業を実施することにより、親の不安やイライラを軽減し虐待予防を図る。
- 新規手帳取得者及び転入者に、気軽に相談できる窓口の紹介や専門相談の紹介を行う。



令和7年度 西成区運営方針(経営課題2)における具体的取組

経営課題	主な戦略	具体的取組	担当分科会
【経営課題2】 人と人がつながり にぎわうまち	(1)住みたいまち、行っ てみたいまちにする (2)地域の活動を支え てつながりをつくる (3)誰もが活躍して輝け るまちにする	西成区文化観光振興事業	にぎわい 分科会
		地域コミュニティ支援事業	
		緑化推進事業	
		西成区地域福祉推進事業	
		西成版サービスハブ構築・運営事業	
		区における人権啓発推進事業	

西成区文化観光振興事業

5決算額

8,019千円

6決算額

7,873千円

7予算額

8,262千円

目的

西成区の歴史・芸術文化・観光資源を活かし、にぎわいを創出するとともに、広く情報発信することで区民の方の愛着を深め、区外の方が魅力を感じる取組みを進める。

取組実績

- 大阪フィルハーモニー交響楽団による音楽鑑賞会等の機会の提供「西成区制100周年クリスマスロビーコンサート」、「オーケストラ鑑賞会(対象:小学4～高校生とその保護者)」、「出前コンサート(対象:3中学校、5小学校)」などを実施
- 大阪府中小企業家同友会西成住之江支部と連携し、西成しごと博物館を実施(参加者272人)
- 芸術文化活動を通じたにぎわい創出のイベント「ちょちょまうヴァナキュラー」を実施(参加者のべ2,428人)
- 新今宮エリアの魅力向上イベント「新今宮ワンダーランド2025」の開催を支援(参加者のべ430人)

自己評価・今後の方針

- 取組みにより、区内外の方に西成区の魅力を感じていただく場の提供ができた。
- 引き続き、西成区の歴史・芸術文化・観光資源を活かし、にぎわいを創出するとともに、広く情報発信することで区内外の方に魅力を感じていただけるように取組みを進めていく。



大阪フィルハーモニー
クリスマスロビーコンサート



「ちょちょヴァナ2025・秋」
の様子(お茶碗作り)

地域コミュニティ支援事業

5決算額

57,946千円

6決算額

62,834千円

7予算額

66,215千円

目的

地域活動協議会の運営を支援することにより、地域課題の解決や地域コミュニティの活性化等を図る。

取組実績

- ・ 地域活動協議会の自律的な組織運営に向けた支援
- ・ 地域活動協議会に対して補助金を交付し、地域課題の解決や地域コミュニティの活性化等を目的とする事業の実施を支援
- ・ 「区民まつり」や「二十歳のつどい」などの区主催イベントや地域団体が主催するイベントにおいて、地域活動協議会や町会加入勧奨に関する周知活動を実施
- ・ 区ホームページにて地域活動の内容を発信
- ・ 職員による地域活動取材記事を写真や動画と共に区SNSにて25回発信
- ・ 西成区地域活動協議会まちづくりフォーラムを開催(令和7年12月21日)



まちづくりフォーラムの様子

自己評価・今後の方針

- ・ 地域活動協議会に対する運営・会計支援により、適切な組織運営及び会計処理が行われている。
- ・ 積極的な情報発信を継続するとともに、使用する媒体の追加や発信内容などについてターゲットを意識した取組みを行い、住民の活動参加や新たな担い手の確保につなげていく。

緑化推進事業

5決算額

4,852千円

6決算額

5,737千円

7予算額

6,224千円

目的

地域活動への動機付けや、地域コミュニティの再生を目的に、高齢者の生きがいづくりや、つながりづくりとしての地域拠点・活動場所の創出、また、地域資源の一つであるボランティアの参画・協働による地域活動として、「種から育てる地域の花づくり」事業を実施し、うるおいのある美しいまちづくりを進めるとともに、景観の向上により不法投棄や迷惑駐輪の軽減を図るなど、住みよいまちづくりをめざす。

取組実績

- 地域ボランティアの参画・協働による地域活動として「種から育てる地域の花づくり」事業を実施
- ボランティア相互の意見交換会や、ボランティア主体による花と緑の講習会を開催



区民まつりの様子



区民まつりでの植物を使った
手作り体験

自己評価・今後の方針

- 自分たちの手で種から花を育て、公園、道路、学校などに植えることで、愛着を深めながら自主的なまちづくりへの参加意識を高めることができた。
- 「種から育てる地域の花づくり」事業は、区民の自主的なまちづくりへの参加意識を高めるとともに、地域活動への動機付けとなり、住民同士のふれあいやコミュニケーションが活性化され、「健康・いきがいづくり」や「こころの健康づくり」に役立つことが期待されることから、今後も引き続き実施する。

西成区地域福祉推進事業

5決算額

646千円

6決算額

527千円

7予算額

792千円

目的

地域で暮らす住民同士がつながりをもち、支え合える地域づくりをめざす。

取組実績

- 地域活動への参加促進や世代間交流の活性化に向けた取組みとして ボッチャ大会やeスポーツ大会・体験会を実施
- 個別避難計画の作成(累計324件)
- 多文化共生をテーマに地域福祉フォーラムを開催(令和7年11月29日)



ボッチャ大会の様子



eスポーツ体験会の様子

自己評価・今後の方針

- ボッチャは地域などの各関係者と調整を行うことでこどもの参加につながり、eスポーツは、地域への周知を継続したことで出張開催の相談が増加しはじめた。地域活動への参加促進に有効な活動であると考えられるため、引き続き世代間・地域間など相互の交流の活性化に取り組む。
- 個別避難計画の作成について、引き続き西成区の避難行動要支援者のうち、優先度が高い方から作成に取り組む。
- 地域福祉フォーラムは、多文化共生などの地域福祉につながるフォーラムの開催を検討する。

西成版サービスハブ構築・運営事業

5決算額

35,448千円

6決算額

38,108千円

7予算額

38,211千円

目的

就労に向けた課題を多く抱える生活保護受給者に、就労意欲の喚起や生活習慣の改善を支援し、就労やボランティアによる社会参加を促す。
就労や地域社会への参加を生み出すことにより「再チャレンジ」に取り組む利用者を支援し、「まちの活性化・イメージアップ」につなげていく。

取組実績

- 対象者に合わせた支援プログラムを作成し、支援を実施
- 対象者に合わせた就労による自立の支援を実施
- 就労体験やボランティアを開拓し、対象者に合わせたマッチングを実施
 - 支援件数 (目標)50件 (実績)新規:12件、継続:54件
 - 中間的就労創出件数 (目標)15件 (実績)21件

自己評価・今後の方針

- 対象者に合わせた支援プログラムを行うことで、着実にステップアップを積み重ね、社会参加を促すことができています。また、新規利用者は前年度に比べ減少したが、継続的な支援を行うことができた。



市営住宅の清掃



市営住宅の草刈り



就労体験(調理)



就労体験(清掃)

区における人権啓発推進事業

5決算額

1,610千円

6決算額

1,900千円

7予算額

2,000千円

目的

人権問題は身近な問題であるという意識を一人ひとりが持てるよう、人権問題に対する理解と認識を深める取組みを進め、人と人との豊かな関係づくりから、人権が尊重されたまちづくりへとつなげる。

取組実績

【人権啓発テーマ「あゆみよるころ、あゆみようこうどう。」に沿った、

多様な人権啓発事業を実施】

- ・ 地域の関係団体から意見を聞く場や情報交換を行う場として、「人権啓発推進会」を実施
- ・ 人権啓発推進員と連携協力し、人権週間での街頭啓発や、各種啓発事業を一緒に実施
- ・ 映画会や音楽イベント、直近の人権課題をテーマにした市民向け人権啓発講座の開催
- ・ 人権啓発コーナーや広報紙への啓発記事の掲載



自己評価・今後の方針

- ・ 啓発講座とイベントの参加者アンケートで「人権の意識は高まった」の肯定意見が93.6%と、多様な手法で啓発を行ってきたことで、区民の意識変化の一助を担っていると言える。
- ・ 引き続き、多様な手法で人権啓発の取組みを進めていく必要がある。



令和7年度 西成区運営方針(経営課題3)における具体的取組

経営課題	主な戦略	具体的取組	担当分科会
【経営課題3】 みんなが安心して暮らせるまち	(1)大規模災害等に備えた体制をつくる (2)行政と地域住民が連携して防犯・安全対策を行う (3)あいりん地域の環境改善事例を広げていく	地域防災活動事業	安全 あんしん 分科会
		防犯対策事業	
		自転車等安全利用啓発事業	
		空家等対策推進事業	
		あいりん地域環境整備事業(巡回・啓発等)	
		結核対策事業	

地域防災活動事業

5決算額

6,052千円

6決算額

7,369千円

7予算額

9,319千円

目的

南海トラフを震源とした巨大地震をはじめとする大規模災害の発生が懸念されている中、災害発生時に重要な「自助・共助」の意識を地域で広めるとともに、地域防災力の向上を図る。

取組実績

- ・ 地域防災訓練 全地域(16地域中1地域については衆議院選挙のため中止)
- ・ 防災土曜授業 全校(小学校 10校 中学校 6校)
- ・ 防災出前講座 8回
- ・ 地域防災リーダー・防災協力事業所合同講習会の開催 2回
- ・ 新任地域防災リーダー技術研修会の開催 など



地域防災訓練



アドバンスト講習会

自己評価・今後の方針

- ・ 各地域での防災訓練を支援し、災害に備えた体制をつくるとともに、小中学生に向けた防災土曜授業等を実施し、自助・共助意識の醸成等に努めた。また、地域防災リーダーと防災協力事業所合同での講習会を実施し、地域と事業所の連携強化の取組みを推進した。
- ・ 引き続き、地域防災訓練の支援等を実施し、区民一人一人の自助・共助意識の醸成及び地域防災力の向上を図る。

防犯対策事業

5決算額

2,146千円

6決算額

1,426千円

7予算額

10,941千円

目的

警察、行政と地域住民が連携して防犯対策の取組を進めることで、地域住民の防犯意識の高揚を図るとともに、犯罪の少ない「安全で安心して暮らせるまち」をめざす。

取組実績

- ・ 防犯カメラ設置補助 8台
- ・ 自主防犯活動団体への支援
- ・ 青色防犯パトロールカー等による巡回
- ・ 幼稚園・保育園の遠足等の随行警備(付添い) 16回
- ・ 防犯・交通安全教室の開催 小学校全校(10校)
- ・ 自転車ツーロック啓発
- ・ 特殊詐欺対策用自動通話録音機器の貸与 36台
- ・ 特殊詐欺被害防止啓発、女性被害防止キャンペーン など



遠足等の随行警備



防犯・交通安全教室

自己評価・今後の方針

- ・ 防犯カメラ設置補助などを行うとともに、警察と連携して小学校での 防犯・交通安全教室などの啓発活動を実施した。
- ・ 西成区における令和7年の街頭犯罪は928件(令和6年858件)で、そのうち自転車盗が約8割を占めている。依然として多い街頭犯罪を抑止していくことをめざして、引き続き、犯罪発生への抑制に向けて啓発を実施するとともに、関係機関や地域との連携・協働により効果的な対策を実施する。



特殊詐欺防止キャンペーン

自転車等安全利用啓発事業

5決算額

2,800千円

6決算額

3,606千円

7予算額

4,689千円

目的

交通安全に関する意識を養うことにより、区民の交通ルールの順守とマナーアップを図る。特に、自転車利用適正化に重点を置き、区内の主要駅(天下茶屋駅、花園町駅、岸里駅)周辺における放置自転車問題を地域課題として区民が主体的かつ継続的に対策に取り組む体制を構築する。

取組実績

- ・ 全国交通安全運動 西成区民大会の開催 (4月・9月)
- ・ 交通安全運動等での啓発 19回
- ・ めいわく駐車・駐輪キャンペーン (6月・10月・12月・2月)
- ・ 放置自転車啓発指導員の配置
- ・ 自転車合同啓発 天下茶屋駅:6回、岸里駅:4回 など



全国交通安全運動西成区民大会

自己評価・今後の方針

- ・ 主要駅に放置自転車啓発指導員を配置するとともに、地域や警察、建設局等と合同で放置自転車への啓発を実施した。
- ・ 駅周辺には多くの自転車が放置されている箇所もあることから、引き続き地域や警察と連携した啓発活動を実施することで、区民全体の交通ルール・マナーの向上をめざす。



放置自転車合同啓発



めいわく駐車・駐輪追放
キャンペーン

空家等対策推進事業

5決算額

2,510千円

6決算額

433千円

7予算額

1,321千円

目的

「大阪市空家等対策計画」第2期に基づき、特定空家等の総数抑制、官民連携の成果の蓄積を方向性とし、喫緊の課題である特定空家等の是正、空家の適正管理や利活用の促進等を総合的に
行い、地域の活性化等につなげていく。

取組実績

- ・ 特定空家等の是正 21件
- ・ 特定空家等・管理不全空家等の所有者調査及び是正に向けた助言、指導
- ・ 空家の管理、活用に関するセミナーの開催（2月）
- ・ 専門家による不動産相談（毎月） など



是正前



是正後

自己評価・今後の方針

- ・ 空家セミナー・相談会による空家の適正管理の促進、管理不全空家等及び特定空家等の是正などに取り組んだ。
- ・ 空家の適正管理や利活用を促進するとともに、空家等の所有者に対して助言・指導を引き続き行う。



空家セミナー

あいりん地域環境整備事業(巡回・啓発等)

5決算額

100,542千円

6決算額

100,056千円

7予算額

103,108千円

目的

あいりん地域を中心に、不法投棄や迷惑駐輪などの対策に取り組み、公有地を清掃することで、生活環境を改善し、多くの住民が安心して暮らすことが出来ていると感じる状態を実現し、西成区のイメージアップに寄与する。

取組実績

- ・ 夜間における不法投棄の課題箇所の巡回、公園内における美化啓発拠点の運営
- ・ 長期間放置されている自転車などの撤去 約1,000台
- ・ 西成区無料自転車置場の管理運営(6か所:1,120台分) など



夜間の巡回



不法投棄対策後



放置自転車の撤去

自己評価・今後の方針

- ・ 西成区内で特に不法投棄などが課題となっている箇所について、関係部局や地域と連携、協働して重点的に対策することで、それぞれの課題を大幅に改善させることができた。
- ・ 引き続き、関係部局や地域と連携、協働した対策を進めることで、課題の改善をめざす。

結核対策事業

5決算額

43,839千円

6決算額

59,315千円

7予算額

52,323千円

目的

西成特区構想の短期集中的施策として実施してきたあいりん地域を中心とした結核対策事業が、一定の成果をあげていることから、さらなる結核患者数・罹患率の減少に向けてあいりん地域はもとより区全体で取組みを強化していく。

取組実績

結核健康診断

- 区役所、保健福祉センター分館における毎日健診(4,658人受診)
- 地域における検診車による健診(869人受診)
- 委託医療機関による健診(1,082人受診)

結核健診受診勧奨

- 区役所内庁内放送等による来庁者への勧奨
- SNSなどによる勧奨
- 地域関係団体と連携し、ポスター・ビラ・回覧板などによる勧奨

結核患者への療養支援

- 患者への服薬支援(DOTS事業)の実施
- あいりん地域での居所のない患者への療養支援事業の実施

研修会

- 結核の正しい知識の普及啓発



あいりん結核健診

自己評価・今後の方針

- 2025年の西成区結核罹患率※は71.7(概数値)。依然として西成区の結核罹患率が高いことから、あいりん地域での取組みを継続しつつ、区全体で取組みを強化し、結核患者の早期発見・服薬支援の充実・普及啓発の推進・発病の予防を柱として、結核対策を進めていく。

※1年間に発病した患者数を人口10万人対であらわしたもの。(2024年の確定値 西成区:82.1 大阪市:17.4 全国:8.1)